

平成19年度

横浜環状南線 都市型トンネル施工技術検討会

概 要 書

平成19年12月

財団法人 高速道路技術センター

1. 検討会の目的

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部を構成する横浜環状南線（釜利谷JCT～戸塚IC間、約8.9km）は、住宅が密集する横浜市南部地域（一部は鎌倉市域）を通過するため、全体の約7割が地下構造（トンネル又は掘割）で計画されている。

そのため、トンネル工事の施工にあたっては、より安全で信頼性が高く、周辺地域に及ぼす影響を最小化できる、最適なトンネル施工方法を採用する必要がある。

近年、都市型トンネルの施工技術の進展は目覚しく、特に周辺地域に及ぼす影響を最小化できるシールド工法については、都市部の住宅密集地域におけるトンネル施工方法として期待できる技術の一つである。

本検討会では、横浜環状南線のトンネル区間におけるシールド工法の適用可能性に関する技術検討を実施するため、学識経験者及び専門技術者の指導・助言を受けながら、最新の技術的知見を踏まえた、シールド工法の施工性・安全性、周辺環境等への影響等の技術検討を行うほか、現計画中のトンネル施工方法との比較検討を行い、より安全で信頼性の高い、最適なトンネル施工方法の提案を行うものとする。

2. 業務内容

本検討会では、以下の項目について審議及び検討を行うものとする。

- (1) シールド工法を採用した場合のトンネルの施工性・安全性、周辺環境等への影響等に関する技術検討及び評価に関すること。
- (2) 最適なトンネル施工方法の提案に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

3. 検討会の運営

本検討会は、東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜工事事務所より委託を受けた、財団法人 高速道路技術センターにおいて運営する。

4. 検討会の開催等

- (1) 本検討会の設置期間は、平成20年10月31日までとし、委員長及び委員は別紙のとおりとする。なお、本検討会の開催時期については、下表を予定している。

区分	開催予定	開催地	検討内容
検討会	平成19年12月	神奈川県横浜市内	・ トンネル構造等の検討 ・ 周辺環境への影響検討 ・ 施工計画検討 ・ 評価 等 検討会の結果は原則として公表
	平成20年 春頃	神奈川県横浜市内	
	平成20年 夏頃	神奈川県横浜市内	
	平成20年 秋頃	神奈川県横浜市内	

- (2) 本検討会において業務上必要と判断される場合は、外部専門家をオブザーバーとして参加させることができるものとする。
- (3) 本検討会の業務に関連して、新たな検討事項が発生した場合は、必要に応じて、他の委員会その他において審議及び検討することができるものとする。

以上

別紙

平成19年度

横浜環状南線 都市型トンネル施工技術検討会

検討会名簿

(敬称略、順不同)

	氏名	所属機関および役職	備考
委員長	今田 徹	東京都立大学 名誉教授	
委員	西村 和夫	首都大学東京 大学院 都市環境科学研究科 都市基盤環境工学専攻 教授	
	真下 英人	独立行政法人 土木研究所 道路技術研究グループ トンネルチーム 上席研究員	
	小山 幸則	財団法人 地域地盤環境研究所 東京事務所 所長	
	城間 博通	株式会社 高速道路総合技術研究所 道路研究部 トンネル研究担当部長	